【論　文　提　出　者】　社会文化科学研究科　人間・社会科学専攻　フィールドリサーチ領域
氏名　王　震霆

【論　　文　　題　　目】　中国と日本の新興産業地域における知識経済化の進展に関する地理学的研究
～南京市江寧区および熊本県を事例に～

【授与する学位の種類】　博士（学術）

【論文審査の結果の要旨】

王　震霆氏の博士論文「中国と日本の新興産業地域における知識経済化の進展に関する地理学的研究—南京市江寧区および熊本県を事例に—」は，中国大都市郊外の新興産業地域の形成過程と，地域の知識経済化の進展を支える地域的な基盤を，ハイテク企業のイノベーションに着目して解明することを試みたものである。

①本論文の位置付け

地域イノベーションシステムは経済地理学と周辺領域で大きな注目を集めるテーマであり，理論研究に加えて世界各地で多数の実証研究が蓄積されている。しかし中国では一般に多数の企業に対する調査が容易ではないこともあり，実証研究が不足している。本論文は進化経済地理学の主要概念である経路依存性および集団的学習の視点を導入するとともに，日本の経済地理学で培われてきた詳細な実証研究の手法を適用した点に第 1 の特徴がある。第 2 の特徴は，現地研究者と地方政府の協力により，対象地域である南京市江寧区のハイテク企業 34 社へのインタビューに成功し，貴重な一次資料を得た点である。第 3 の特徴として，江寧区と類似の発展過程を経験した日本国内の事例（熊本県）との比較によって，その地域的特徴の解明を試みた点である。

②本論文の示す新知見、独創性

本論文は，江寧区での新興産業地域の形成過程を企業の創業と立地変化，行政の政策に着目して論じており，旧南京市内に立地する旧国有企業・大学・研究所からのハイテク企業の独立創業と郊外分散，行政による経済開発区の整備と強制的な移転政策等の重要性を指摘した。さらにイノベーションの創出の過程においても南京市など国立研究所や大学などとの連携によって知識が獲得される傾向が強いことを明らかにした。これらの点を，熊本県での調査結果（誘致大企業を主とする企業誘致と，イノベーション時における域内大企業からの知識獲得傾向）と対比させて明確にしている。中国に関する既往研究が主として外資を含む企業誘致の影響を強調するのに対し，本論文では，産業地域の形成とイノベーション創出の両面において，旧国有企業を主とする内発的な傾向，ならびに国家資源の重要性を，経路依存性に着目することで明らかにしており，中国における産業発展ならびに知識経済化の理解に再考を促す新知見を提示している。

③本論文の評価等

本論文は，調査が容易ではない中国において詳細な実態調査を遂行した貴重な労作であり，中国の経済地理的理解について新知見をもたらした点に独自性が認められ，高く評価できる。他方で，国民経済の中での対象地域の位置づけや，イノベーションと知識経済化の関連等についてさらなる検討の余地があるとの指摘もなされたが，論文全体の価値を大きく損なうものではない。なお本論文の内容はすでに 3 回の学会（全国学会 2 回，支部例会 1 回）で口頭発表されている。また第 6 章の内容は地理科学学会の『地理科学』第 73 巻 4 号（2018 年 12 月）に査読付き論文として掲載されており，客観

的な評価を受けている。
　以上より，本審査委員会は本論文を博士学位にふさわしい水準であると判断し，合格と判定する。

【最終試験の結果の要旨】

　王震霆氏が提出した論文「中国と日本の新興産業地域における知識経済化の進展に関する地理学的研究―南京市江寧区および熊本県を事例に―」について，2019 年 1 月 9 日（水）16 時 30 分から 18 時 30 分まで，文法棟応接室において審査委員全員の出席の下，口述試験を行った。また，2019 年 1 月 26 日(土)10 時から 11 時まで，文法棟 A1 教室にて学位論文公開発表会を実施した。口述試験と論文発表会では，専門的な学識に基づいた応答が適切になされた。
　以上の結果，上記の者は，提出された論文に対する専門領域について優れた学識を有し，自立して研究を行う能力が十分にあると判断され，審査委員会は，博士(学術)の学位を上記の者に授与するに値すると判定するに至った。

【審査委員会】

主査　鹿嶋　洋
委員　米島　万有子
委員　外川　健一
委員　牧野　厚史